

# これからの学校と地域 第3号



## 船生の連携・協働の実践は、「船生モデル」へ

7月からスタートしたモデル校としての船生小学校の実践も、いよいよ終了となります。頑張る学校・地域！応援プロジェクトのモデル校として取り組んだ成果や課題は、船生小学校、塩谷町教育委員会、塩谷南那須教育事務所でしっかりと共有し、今後の活動に活かしてまいります。

船生小学校の一連の取組は、玉生地区や大宮地区でも実践が可能です。つまり、「船生モデル」を作ったといってもよいでしょう。

塩谷町には、塩谷町地域学校協働本部があり、その支部として船生小学校区支部協議会ができ、船生地区住民と船生小学校との新しい連携・協働活動が始まりました。

モデル校としての取組を進める中で、大きな成果と言えるのは「ふなっこチャレンジウォーキング」の計画です。2回の地域連携研修会を経て、地域と学校がめざす子ども像を設定し、それに迫るための具体的作戦を考え、それらを会議によって練り上げ、実施計画にまで具現化しました。

特筆すべきは、学校と地域が一緒になって、学校の教育活動の実施計画を作成した点です。おそらく、このような実践はあまりないのではないのでしょうか。



写真のように、実施に向けての实地踏査も行ったのですが、緊急事態宣言が発令されたため中止になってしまいました。

残念だ、ぜひやりたかったという思いはこの企画に関わった人ならば誰もが思うでしょう。しかし、船生のすごいところはそのような思いだけで終わりにしないところです。

船生コミュニティ推進協議会が子どもたちのために「ふなっこチャレンジウォーキング」の記念品を準備してくれていたのです。パンフレットと缶バッジです。このような地域からの

有り難い計らいは、普段から学校と地域がよい関係にあるからなのでしょう。

次年度こそ、缶バッジを身に付け、パンフレットを持ち、右ののぼり旗を掲げながら、子どもたちや地域の方がさっそうと歩く姿を見たいものです。船生地区の学校と地域の連携・協働にさらに磨きがかかった象徴として。

